

# 展示物の紹介

- ①「**オランウータンの胎仔の頭蓋骨**」 アジアにくらす類人猿です。胎仔の頭蓋骨は、ヒトの胎児（展示物の⑤）にそっくりです。
- ②「**サメの下顎骨**」 サメの歯は、獲物にかみつくとよく抜けてしまうため、一生涯に何度でも生え変わります。
- ③「**愛知県産ニホンカモシカの頭蓋骨**」 国の特別天然記念物でもあるウシ科の動物（※シカの仲間ではない）です。  
野生動物には珍しい「歯周疾患」が見られます。
- ④「**ビーバーの頭蓋骨**」 体重10キロを超えるネズミです。前歯（切歯）は鋭く、よく物をかじるために、一生涯伸び続けます。
- ⑤「**ヒトの頭蓋骨の成長**」 胎児期から成人までの本物のヒトの頭蓋骨がそろっています。  
赤ちゃんの頭のへこみは「泉門」とよばれる骨の隙間で、生後一度大きくなってから閉鎖します。
- ⑥「**ポッターの全身骨格**」 アフリカにくらす原始的なサルです。下顎の前歯が、毛繕いに最適な「クシ状」になっています。
- ⑦「**シラスの透明標本**」 赤色や青色で骨格を染めた大変美しい標本です。
- ⑧「**スチュアート咬合器**」 「咬合器の王様」ともよばれています。発売当時は、高級車が買えるほど高価なものだったとか。
- ⑨「**むしばの会議（岡本清纒 著）**」 初代歯学部長が著した童話集。「富士山と桜と虫歯は日本の名物」と書かれています。
- ⑩「**G. ビドローによる人体解剖学**」 日本が江戸時代だった頃に、ヨーロッパでは既に精密な解剖学書が出来ていました。
- ⑪「**1930年のムシ歯予防デーの統一標語ポスター**」 ムシ歯予防デー（現・歯と口の健康週間）で最初に作られたポスターです。
- ⑫「**木製治療イス**」 明治時代に作られたと思われる折り畳み式の歯科用治療イスです。
- ⑬「**獅子印ライオン歯磨**」 明治時代に小林商店が発売した歯磨き用の粉です。獅子（ライオン）がパッケージに使われています。  
この商品が大ヒットして、後の社名が「ライオン」になりました。
- ⑭「**木床義歯**」 江戸時代に作られたと思われる木製の総入れ歯です。お歯黒が施されているので、女性用だったのでしょう。
- ⑮「**ペンスコープ**」 小型の口腔内カメラです。お口の中の状態をチェックしてみませんか？

展示室についてもっと知りたい方は、HPを見てね！ ➡

